

フィールド実習：各フィールドの実施概要（2024年度）

1. 持続可能なキャンパスとは？（淡路景観園芸学校・牧野植物園・香川大学・愛媛大学）

参加学生数 16名

担当教員：ルプレヒト クリストフ（環境デザイン学科）

ゼロ・カーボン化、パブリック・スペースやいきものの生息地、魅力的な教育の場：持続可能な大学キャンパスを実現できるまで、課題が数多く存在する。四国の大学キャンパスや公共施設を調べ、訪問し、参与観察やインタビューなどで4テーマ（持続可能な生態系、人が集まるキャンパス、資源循環・ゴミがでない仕組み、サステナブルマップ・パブリックスペース）について調査を行い、結果を分析し多様な未来のキャンパスへのヒントを探求し、キャンパスの改善にどう繋げられるか検討した。

2. 4サイクルエンジンの分解・組立とメーカー調査・見学

参加学生数 10名

担当教員：高橋 学（産業イノベーション学科）

エンジン等の仕組みを学ぶ前に、大型運搬モノレールのメーカー（光永産業㈱）について企業調査を行い、プレゼン報告後、見学を実施した。さらに4サイクルエンジンを分解し、排気量計算のための計測や個々の部品の機能について学ぶとともに、各自1部品を選択し、スケッチ・機能調査を行い、エンジンを組立てた。最後にふりかえりを実施した。

3. 大王製紙における製品開発、海外展開、環境への取り組み

参加学生数：10名

担当教員：福垣内 暁、深堀 秀史（産業イノベーション学科）

日本有数の総合製紙メーカーである大王製紙を訪問し、製品開発や海外展開の状況および環境保護に関する取り組みについて調査した。また、日本でも最大規模の製紙工場である三島工場（四国中央市）を訪問し、最先端の家庭紙および板紙製造マシンを見学した。見学後は社員の方と質疑応答を行った。

4. 西予市三瓶町周木地区における住民組織と連携した活動実践

参加学生数：59名

担当教員：笠松 浩樹、山藤 篤、石川 慶一郎（地域資源マネジメント学科）

過疎・高齢化が進む沿岸部の集落に2泊3日滞在し、地域づくりを行う住民組織と学生が連携し、実践活動を行った。具体的には、イベントで使用するいかだの製作、夕涼みイベントの運営、フォトコンテストの運営、技能実習生との交流、歴史調査、魅力発信である。最終日は報告会を開催し、住民へ向けて活動内容を説明し、意見交換を行った。また、その経緯は住民向け情報誌としてもまとめ

ている。なお、滞在中の食事は全て学生が当番制によって自炊した。集団での行動や生活についても学習する機会となった。

5. 愛媛県・20市町の危機管理職員へのヒアリング

参加学生数 12名

担当教員：二神 透（環境デザイン学科）

愛媛県防災危機管理課にて、愛媛県としての防災の取り組みと課題に関するヒアリングの後、松山市防災危機管理課にてヒアリングを行った。その後、2つのグループに分かれて、県内の自治体の危機管理職員へのヒアリングを行った。最後に、各グループが自治体の規模や災害特性に応じた各行政の取り組みや課題を抽出し、互いにプレゼン報告することによって情報を共有することができた。

6. 松山市近郊の地域課題の解決を目指して

参加学生数：57名

担当教員：徐 祝旗、尾花 忠夫、谷本 貴之（産業マネジメント学科）

本クラス（履修者数57名）では、松山市近郊の企業や地域が直面している諸課題を探り、その解決策を提案することを目的として、各班において調査研究を行った。調査は大街道、銀天街、道後商店街などの松山市を代表するフィールドを中心に訪れた人へのアンケートや商店街振興組合へのヒアリングを実施することによって行われた。そうした調査の結果に基づき定量的・定性的な分析を通して、地域課題の解決案を提示した。

7. 地域の環境問題とその解決手法に関する調査 -八幡浜市の環境保全活動を対象として-

参加学生数：11名

担当教員：片岡 由香（環境デザイン学科）

愛媛県八幡浜市を対象に、地域や瀬戸内海周辺を対象に環境保全活動をされている団体にヒアリング調査を行い、地域の環境問題を調査し、現状把握と課題解決について考察することを目的とした。無農薬による農法による環境改善や、海洋ゴミの問題、温暖化による漁礁の変化に向けた改善策、子供や若者など未来を担う世代への環境教育などの取り組み内容についてお話を伺い、八幡浜市の生業と密接する環境問題の現状とそれらを支える改善策の取り組みについて把握し、取り組みを推進していくための課題について考察した。